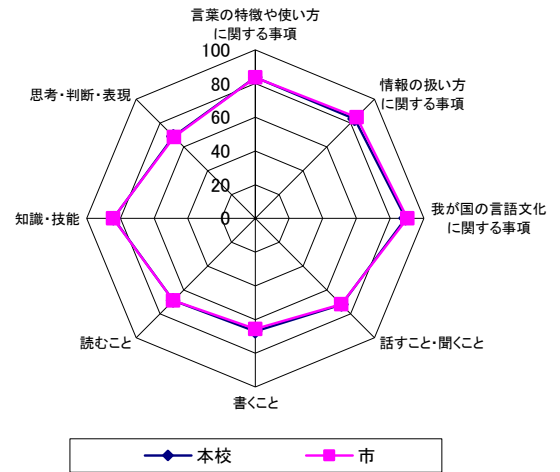


宇都宮市立河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.7	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	83.3	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	89.2	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	72.2	72.1	67.8
	書くこと	67.0	65.5	51.8
	読むこと	68.8	68.9	57.8
観点別	知識・技能	84.2	84.4	80.5
	思考・判断・表現	68.8	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

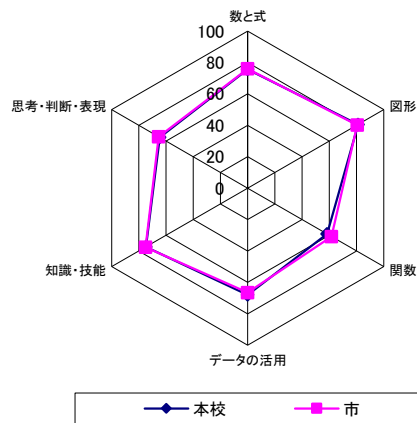
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読みの設問では全問正答率が98%を超えていた。 ●漢字の書きの「浴びる」と書く問題では、正答率が59.8%にとどまり、市の平均から14ポイント下回っていた。 ●類義語を答える問題の正答率が48%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の書き取りは、文字を書く機会の減少が原因として挙げられるため、タブレットを有効に活用しつつも、文字を書く機会をしっかりと確保していく。 ・読書量が少なく、それにより語彙力が下がっている実態が見られる。学校図書館を活用し、読書量を増やすことで語彙力の増強を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○情報と情報との関係の様々な表し方を問う問題では正答率が83%と、全国の平均に比べ4ポイント程度高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を見て、情報と情報を結びつける力が身に付いている。今後も表やグラフと文章を結び付けたり、複数の文章を読み比べたりする活動を積極的に設けることで、情報と情報の関係を読み取る力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○現代語を手掛かりに古典を読む問題では、正答率が89%と、全国の平均に比べ5ポイント程度高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代語がある古典ならば、読むことができている。しかし、現代語がなくなると、途端に苦手意識が生まれる傾向が見て取れる。主語の見分け方や、基礎的な古典単語を身に付けさせることで、現代語がなくなるとも古典の内容を読み取れるよう指導していく。 ・教科書に載っている古典だけでなく、他の作品にも触れさせることで、古典的表現に慣れさせる。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○話の展開を予測しながら聞く問題では、正答率が89%と高く、全国の平均を2ポイント上回っていた。 ○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する問題では正答率が72%で、全国の平均を7ポイント程度上回っていた。 ●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話す問題では、正答率が55%にとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを言葉にして表現する機会を継続してつづけていく。 ・論理の展開を考える力が弱く、普段から思いついた順に言葉を紡いでいく傾向が見られる。また、自分の意見が曖昧になってしまうことも多くみられる。そのため、自分の立場を明確にし、話す前に順番を整理してから相手に伝えるよう指導していく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○伝えたいことを明確にして書く力や、指定通り2段落で書く力は正答率が80%を超え、市や全国の正答率の平均を上回っていた。 ●資料を読み、読み取ったことを分かりやすく文章にまとめる問題では、正答率が38%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの思い出や運動会の振り返りなど、自分の体験から文章を書く力は身に付いており、抵抗感も少ないため、そういった機会を今後も継続して設ける。 ・自分の体験から離れ、文章を踏まえて書いたり、資料から読み取ったことをもとに書いたりする力に課題が見られるため、ニュースを見て自分の考えを書いたり、数値をもとに自分の意見をもったりするような活動を取り入れていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章を読む問題では、どの問題も全国の平均正答率を上回っており、物語の展開の仕方を捉える力、文章を読み自分の意見をもつ力が身に付いている。 ●説明的な文章の内容を読み捉える問題では、文学的文章に比べ平均正答率が低く、特に論理の展開の仕方を捉える問題では平均正答率が市の平均を9ポイント程度下回っており、課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章では、物語の流れを把握する力は身に付いているが、登場人物の心情を読み取る力にまだ課題が見られる。特に自分の心情で答えてしまう生徒が多いため、本文の記述を根拠に心情を捉えるよう指導していく。 ・説明的文章では、内容を捉えることはできても、文章全体の構成を捉えることができている。そのため、接続詞に注目するなどして段落同士の関係を捉え、論理の展開の仕方を正しく捉えられるよう指導していく。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.7	76.0	69.0
	図形	81.1	80.5	67.7
	関数	58.3	61.6	55.0
	データの活用	68.0	66.5	56.4
観点別	知識・技能	74.8	75.1	69.4
	思考・判断・表現	64.6	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

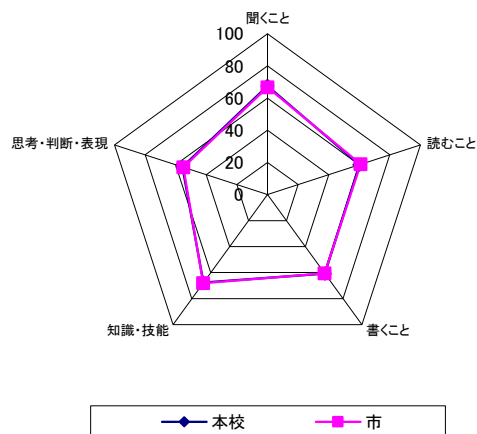
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は75.7%で、市の平均正答率と同程度である。14問中半数の正答率が市の平均を上回っており、活用の問題については4問すべてにおいて上回っている。</p> <p>○活用の問題「説明を読み、示された式の別の意味を示す問題」の本校正答率は76.7%で、市の平均を6.7ポイント上回っている。</p> <p>●「因数分解を使って二次方程式を解く問題」の正答率は66.0%で、市の平均を6.0ポイント下回っている。</p>	<p>思考力・判断力・表現力が概ね身に付いている生徒が多いと考えられるが、今後も様々な活用の問題を自力解決できるように、数学的な見方や考え方を高める授業を実施する。</p> <p>基礎的な問題を確実に解くことができるように、反復練習を適切に実施する。また、因数分解を使った二次方程式の解法の正答率が低かったことから、既習事項と新たな学習内容の関連について十分に理解できるような授業を展開する。</p>
図形	<p>平均正答率は81.1%で、市の平均正答率と同程度である。7問中5問の正答率が市の平均を上回っている。</p> <p>○「対称移動させて重ね合わせることができる四角形について、対応する点の位置を選ぶ問題」の正答率は84.5%で、市の平均を5.6ポイント上回っている。</p> <p>●「おうぎ形の面積を求める問題」の正答率は55.3%で、市の平均を6.1ポイント下回っている。</p>	<p>基礎的な知識・技能の定着にムラがあり、図形領域では計算を必要とする問題を苦手とする傾向がある。反復練習だけでなく、公式のもつ意味の理解を重視した授業を行い、確実な知識・技能の定着を図る。</p>
関数	<p>平均正答率は58.3%で、市の平均正答率を3.3ポイント下回っている。6問中4問の正答率が市の平均を下回っている。</p> <p>○「1次関数の式から、xの増加量に対するyの増加量を求める問題」の正答率は64.1%で、市の平均をやや上回っている。</p> <p>●「正方形の辺上の動点を頂点とする三角形の、面積の変化のようすを表すグラフを考える問題」の正答率は45.6%で、市の平均正答率61.0%を大きく下回っている。</p>	<p>「式」「表」「グラフ」それぞれがもつ有用性を十分に理解させる授業を展開する。</p> <p>動点の問題は「方程式」「関数」の両方で学習可能であることから、前年度までの既習事項を踏まえて授業でどのように扱おうと効果的か研究し、それぞれの単元において適切に実施する。</p>
データの活用	<p>平均正答率は68.0%で、市の平均正答率より1.5ポイント高い。4問中3問の正答率が市の平均を上回っている。</p> <p>○「5人の中から2人の代表を選ぶときの確率を求める問題」の正答率は85.4%で、市の平均を7.0ポイント上回っている。</p> <p>●「四分位範囲を求める問題」の正答率は53.4%で、市の平均を4.8ポイント下回っている。</p>	<p>度数分布表、ヒストグラム、箱ひげ図等それぞれがもつ有用性を十分に理解できるような授業を展開する。</p> <p>箱ひげ図が中学校の学習内容に含まれてからまだ10年足らずであるため、効果的な学習や魅力ある授業についての研究が発展途上であるともいえる。生徒の反応や理解度をもとに、より良い授業を目指して教材研究を継続的に行う。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	67.6	66.8	61.5
	読むこと	60.1	60.9	55.5
	書くこと	60.7	60.5	50.9
観点別	知識・技能	67.7	68.1	64.1
	思考・判断・表現	55.6	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、昨年同様、他の領域より高く、市の正答率を0.8ポイント上回っている。</p> <p>○知識・技能に係る「対話を聞き、適切な応答を選ぶ問題」の平均正答率は、73.8%で市の正答率を7.3ポイント上回っている。</p> <p>●「道案内の場面での英文を聞き、内容に合う絵を選ぶ問題」の正答率は、73.8%で市の正答率を4.0ポイント下回っており、特別な場面での特有な表現に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な場面における英語の表現に関しては、対話の応答も含めて理解できている。今後も英語で授業を進めることを通し、英語で対話する場面をより多くしていきたい。 ・特定のシチュエーションでの特有の言い回しに慣れさせる活動や聞いたことを同時に視覚化する練習を取り入れる。
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率を0.8ポイント下回っている。</p> <p>○「対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているか確認する問題」の正答率は、84.5%で市の正答率を7.0ポイント上回っている。</p> <p>●「対話文を読み、その内容を理解する問題」の平均正答率は、71.8%で市の正答率を8.4ポイント下回っており、語彙の知識・理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を読み取るための基礎的な語彙や表現を身に付けることで、読み取りで力が発揮できるように引き続き支援していきたい。 ・文脈や場面を意識した語彙の習得に力を入れ、対話文で応用できるようにする。また、ペアワークなどで、アウトプットを通じた語彙の活性化を図っていく。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均平均正答率を0.2ポイント上回っている。</p> <p>○「対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書く問題」は、市の正答率をすべて上回っており、場面に応じて英文を書く練習の成果が表れてきていると考えられる。</p> <p>●「文の語順を理解し、正確に書くことができるか確認する問題」の中の〈make+人+形容詞〉の文の平均正答率は、69.9%で市の正答率を12.3ポイント下回っており、複雑な文構造の並べ替えに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無回答率が市平均よりも低いことから、「書くこと」に関して抵抗をもっている生徒が少ないと言える。今後も自分の考えや思いを伝える活動を繰り返し行っていきたい。 ・文が長く複雑なものについては、「骨組み(SVO)」と「飾り(修飾語)」を分離して考え、「文の骨格を見抜く力」を養えるよう指導していく。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	68.5	66.0	57.8
	歴史的分野	60.1	58.9	51.4
	公民的分野	72.7	72.0	72.2
観点別	知識・技能	71.6	69.3	62.9
	思考・判断・表現	56.6	56.0	49.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

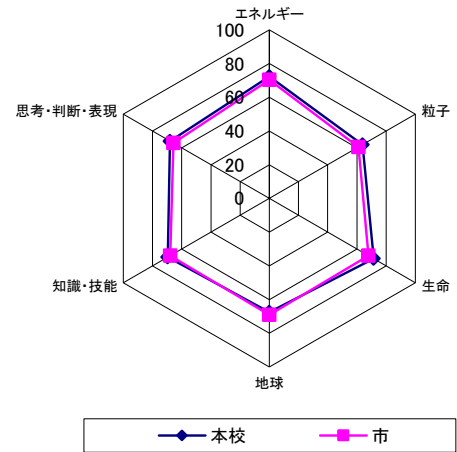
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域の平均正答率は、市を2.5ポイント上回った。 大問3「日本の諸地域」の問題に関して、市平均を全て上回っていた。特に、東北地方・九州地方の産業と特色についての理解をもとに考察する問題に関しては、正答率65.0%と、市正答率を5.2ポイント上回った。 ●大問2「日本の地域的特色と地域区分」の日本の気候の特色に関する問題で、市正答率を2.8ポイント下回った。	市正答率より低かった「日本の交通網の特色について」と「日本の気候の特色について」の理解より深まるよう、複数の資料を関連付けて考察する等、工夫した授業展開を図りたい。 また、課題について各自の考えを伝え、話し合う過程を通して、考えを深化させたい。
歴史的分野	○領域の平均正答率は、市を1.2ポイント上回った。 大問6「明治時代」の問題に関して、市平均を全て上回っていた。特に、明治時代初期に日本が結んだ条規について資料をもとに判断する問題に関しては、正答率65.0%と市正答率を13.0ポイント上回っていた。 ●大問5「江戸時代」の対外関係に関する問題に関して、市正答率を6.5ポイント下回った。	「世紀の表し方について」、「中国文明の発展について」、「公事方御定書について」が、江戸時代の対外関係に関する問題に次いで、正答率が市正答率より低かった。課題を追究したり解決したりする活動を通して、年代の表し方や時代区分の意味や意義について基礎的な内容を理解させたり、時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目させたり、小学校での学習を踏まえ、時代区分との関わりなどについて考察し表現できるようにさせたい。
公民的分野	○大問8「人間の尊重と日本国憲法」の憲法改正の手続きについて理解しているかを問う問題において、市正答率を15.5ポイント、大問7「私たちの生活と現代社会」の少子高齢化にともなう課題に関する問題においても、6.6ポイント上回っていた。 ●大問8の新しい人権の理解に関して、市正答率を6.6ポイント下回った。	市正答率を上回った憲法改正の手続きに関して、1回で理解することが困難だったため、何度も繰り返し復習した。日本の少子高齢化に関しては、各単元において関連させ課題解決学習を展開した。繰り返し復習したり、関連させて何度も取り上げたりした内容に関しての正答率が高かった。その結果を受け、学習した内容を関連させ何度も取り上げたり、課題を主体的に追究する活動を通して、多面的・多角的に考察させたりし、理解を深めさせたい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	72.3	70.3	59.4
	粒子	63.8	61.1	56.4
	生命	71.5	67.9	62.7
	地球	67.5	69.1	65.6
観点別	知識・技能	69.5	67.9	63.8
	思考・判断・表現	68.0	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○力学的エネルギー保存と振り子運動について問う設問について、市の平均正答率を5.9ポイント上回っていた。</p> <p>○エネルギーに関する設問について、1問以外は市の平均正答率を上回っていた。</p> <p>●静電気と粉末インクとの関係を問う設問について、市の平均正答率を3.1ポイント下回っていた。</p>	<p>全体的にエネルギーに関する理解度は高かった。一方で、日常的な知識と結びつけて考えさせる問題など、その場での思考力が問われる問題に弱いことが分かった。</p> <p>授業の際に、学習内容が日常にどのように生かされているのか、教科書などを活用して触れたり、調べたりする機会を設けたい。</p>
粒子	<p>○銅をより多く酸化させる手段について考えさせる設問について、市の平均正答率を8.6ポイント上回っていた。</p> <p>○粒子に関する設問について、1問以外は市の平均正答率を上回っていた。</p> <p>●質量パーセント濃度を求める問題について、市の平均正答率を3.0ポイント下回っていた。</p>	<p>全体的に高い理解度を示していた。一方で、計算を含む問題に弱いことが分かった。基本的な計算問題から、入試に対応できるような応用問題にステップアップできるように丁寧に問題演習を重ね、訓練させたい。また、原子やイオンの粒子モデルのイメージについての理解も市や全国と同様に理解が不十分だと言える。ICT教材を活用するなどして、概念の理解を深められるように援助したい。</p>
生命	<p>○外骨格について理解しているかどうかを問う問題について、市の平均正答率を10.6ポイント上回っていた。</p> <p>○生命に関する設問について、1問以外は市の平均正答率を上回っていた。</p> <p>●蒸散による水の減少量を問う設問について、全国の平均正答率を4.6ポイント下回っていた。</p>	<p>全体的に高い理解度を示していた。一方で、計算を含む問題に弱いことが分かった。基本的な計算問題から、入試に対応できるような応用問題にステップアップできるように丁寧に問題演習を重ね、訓練させたい。生命については興味をもつ生徒も多いため、深く思考させる場面を増やして、科学的思考力の向上に努めたい。</p>
地球	<p>○震度の大きさと震源からの距離の関係を問う設問について、市の平均正答率を4.3ポイント上回っていた。</p> <p>●地球に関する設問の合計正答率は、市の平均正答率を1.6ポイント下回っていた。</p> <p>●等圧線について問う設問について、市の平均正答率を6.2ポイント下回っていた。</p>	<p>他の分野と比較して、なかなか実験を設定しにくい分野であることが、生徒の理解や興味・関心を低くしている要因だと考えられる。実験をすることは難しくとも、簡易モデル装置を作成した演示実験を行ったり、ICT教材を活用したりして、状況を改善したい。</p>

宇都宮市立河内中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○自ら考え、自ら学習しようとする意志をもつ生徒を育成する。	○一人1授業公開を実施し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」について、授業実践を重ねる。教科や領域を超えて、職員間で相互に意見交換して授業改善を図る。	○学習内容定着度調査での「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の項目では、肯定的回答率が81.99%で、昨年度よりも3.6ポイント上回った。 ○次年度も一人1授業公開を行い、より多くの教師が互いの授業を参観しやすい雰囲気作りや仕組みなどを検討する。
○言語活動を設けた授業実践によるコミュニケーション能力の育成を通じて、考える力を育む。	○言語活動を取り入れた授業方法や学習形態など、学び合いの工夫に取り組む。具体的には、ICT機器を活用した言語活動や学習に合わせたグルーピングを行い、生徒の学びの推進を図る。	○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の項目では、肯定的回答が87.9%で昨年度より2.7ポイント上回った。 ○「インターネットを活用するとき、正しいかどうかよく考えて情報を得ており、また、責任をもって情報を発信している。」の項目では、肯定的回答率が93.5%で宇都宮市の平均正答率を1.7ポイント上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

教科ごとの調査結果では、昨年度とは違って領域別でも観点別でも10以上の多くの項目で宇都宮市の平均正答率を下回った。この結果から次年度についても、

- ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践と考える力の育成
- ・ICT機器を活用した授業展開やその工夫（ICT支援員との連携や校内研修）

などに重点をおいて、生徒一人一人の学力向上を目指して指導していきたい。